

高浜4号機トラブル謝罪

自動停止で関電 運転再開めど立たず

営業運転中だった関西電力高浜原発4号機（高浜町）の原子炉が自動停止したトラブルを受け、関電原子力事業本部の田中剛司副事業本部長は二十一日、県庁で開かれた県原子力安全専門委員会で、「県民の皆さまに不安を与えたトラブルを起してしまい申し訳ございません」と謝罪した。

高浜4号機は、原子炉容器の周りにある四つの検出器のうち二つ以上で、核分裂の際に発生する中性子の減少が確認され、原子炉が自動停止した。運転再開のめどは立っていない。

委員からは時系列のデータ開示を求める声が上がった。関電側は原因究明に取り組み、次回の会議で報告する考えを示した。

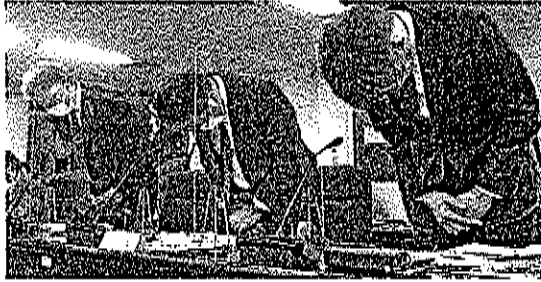
高浜1、2号機の海水電解装置建屋で昨年十二月に発生した火災について、関電側は協力会社の従業員ら

の作業ミスが原因だったと説明した。委員からは「確認のあり方がなぜ破られたのか、教育の徹底と言っている割には謎だ。一事が万事なので徹底をお願いしたい」と厳しい意見が出た。

また、研修のやり方の見直しや他業種も含めたミス防止に関する情報収集をすべきだとする提言もあった。

蒸気発生器のトラブルが相次いだ高浜3、4号機の発生器の交換計画に関しては、伝熱管に従来品より耐

の電力の安定供給に支障はない」と説明した。



高浜原発4号機が自動停止したトラブルについて説明する田中副事業本部長（左）と関係者の抱頭者（右）31日、県庁で

食性に優れた材料を採用することなどが報告された。委員から交換に異論は出なかった。

会議終了後、委員長の鞍谷文保・福井大学術研究院教授は高浜4号機の自動停止について「原因がまだ分からずコメントできる状態ではないが、重大な問題だと思つ」と述べ、相次ぐトラブルには「関電には撲滅に、より取り組んでもらいたい」と語った。

（佐久間博康）

経産相「再発防止を」

西村廉徳経産相は三十一日の閣議後記者会見で、関西電力高浜原発4号機が自動停止したトラブルについて「関電には原子力規制委員会の監視のもと、安全第一でしっかりと原因究明、再発防止に取り組んでもらいたい」と述べた。

西村氏は「原子炉の冷却は正常に行われ、周辺環境への影響はないと聞いている。現時点で西日本エリア

「安心へ情報提供を」

高浜町長 一月三十日の関西電力高浜原発4号機の自動停止を受け、高浜町の野瀬豊町長は三十一日「関西電力へは直ちに原因究明を進め適切な措置を講じて」と、周辺環境への影響調査を継続し、町民が安心できる情報提供について要請した」とコメントを発表した。